

1 題材名 自分を表す形 ～篆刻～

2 題材の目標

- ・篆刻に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。  
(美術への関心・意欲・態度)
- ・自分の思いを基に主題を生成し、表現の構想を練ることができる。 (構想や発想の能力)
- ・印材を彫刻するために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表すことができる。  
(創造的な技能)
- ・友人の作品のよさや美しさを創造的に味わうことができる。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、加工しやすい石材である高嶺石を用いて、生徒が思い描いた形を表現することを目的とする。高等学校学習指導要領解説芸術編では、美術IのA表現(1)アに関して、「感じ取ったことや考えたこと、感動や湧出したイメージ、自己の考えや夢などを基に、表したいことを自らの内面に働きかけ問い直しながら主題をつくりだしていくことが大切」と示されている。柔らかい石材加工を題材とすることで、生徒は、自らの思いを投影しながら表現することができる。また、この題材を通して、生徒が自己の思いや願いを見つめ直し、主題を生み出して表現することの大切さを理解することは、課題を見付け主体的に解決していく力の育成につながると考える。

(2) 生徒の実態

本校の第1学年\*組の生徒は、男子\*人、女子\*人でクラスの仲が良く、活発な生徒が多い。発問に対する発言や鑑賞の際のつぶやきも多く見られ、美術への関心が高い。しかし、題材について時間をかけて発想や構想を練ったり、自分の考えを形や言葉にしたりすることに苦手意識を感じている生徒も多い。また、周囲の状況に影響を受けやすく、一人で集中することを苦手としたり、周囲に合わせて同じ活動をするのを苦手としていたりする生徒も若干見られる。

(3) 指導観

本題材では、まず、参考作品や映像資料等を使って篆刻作品や国内外の書画、絵手紙などの身近な作品に捺印されている篆刻を鑑賞し、作品と篆刻の調和された美しさやサインの大切さに気付くようにする。次に、アイデアスケッチを行い、「自分らしさとは何だろう」という発問から、生徒が作品全体のコンセプトを発想し、「自分を表す形」の構想を練っていけるようにする。また、アイデアスケッチの時点でコンセプトが明確にならなくても、制作の過程で確定していけるように、随時、アイデアスケッチを振り返りながら活動できるようにする。

制作では、まず印面をつくり、次に持ち手を彫刻する。持ち手の制作の際、平面のデザインを立体として把握することが難しいことが考えられるので、粘土を用意しておき、試すことによって石材の彫刻ができるようにする。学習形態は、基本的に個人制作とするが、友人の制作から触発されたり、アイデアを相談したりしてよりよい発想や構想につながるように、美術室後方にグループで制作できるスペースをつくる。

以上のような手立てを講じることで、生徒は自分と向き合い、また、友人とのかかわりを通して発想や構想の能力を高め、主体的に創造的な活動ができると考える。

#### 4 指導と評価の計画（14 時間扱い）

次	時	学習のねらい，学習活動	評価の観点				学習活動に即した評価規準 ( )内は評価方法
			関	発	技	鑑	
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考作品を鑑賞する。</li> <li>「自分を表す形」の題材を受けて，印面のデザインを考える。</li> </ul>	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>篆刻に関心をもち，主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとしている。（観察）</li> <li>自分の思いを基に主題を生成し，表現の構想を練っている。（観察，アイデアスケッチ）</li> </ul>
2	2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>印材に鏡文字で写す。</li> <li>印面を彫る</li> <li>捺印し直す。</li> </ul>	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>印面を彫刻することに関心をもち，主体的に表現の活動に取り組もうとしている。（観察，作品）</li> <li>印面を彫刻するために必要な技能を身に付け，表現方法を工夫して表している。（観察，作品）</li> </ul>
3	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>スライドソフトを見て，持ち手のデザインを考える。</li> </ul>		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを基に主題を生成し，表現の構想を練っている。（観察，アイデアスケッチ）</li> </ul>
4	6 7 8 9 10 11 ⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料の石材に各方向からデッサンを入れる。（1 h）</li> <li>やすりで荒取りをし，彫刻刀で細部を彫る。（4 h）</li> <li>磨いて仕上げる。（2 h）</li> </ul>	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>持ち手を彫刻することに関心をもち，主体的に表現の活動に取り組もうとしている。（観察，作品）</li> <li>持ち手を彫刻するために必要な技能を身に付け，表現方法を工夫して表している。（観察，振り返りファイル）</li> </ul>
5	13 14	<ul style="list-style-type: none"> <li>印面と持ち手の制作を振り返る</li> <li>相互の鑑賞会をする。</li> </ul>	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>友人の作品を鑑賞することに関心をもち，主体的によさや美しさを味わおうとしている。（観察）</li> <li>友人の作品のよさや美しさを創造的に味わっている。（ワークシート・鑑賞カード）</li> </ul>

#### 5 本時の学習

##### (1) 目標

石材を彫刻するために必要な技能を身に付け，表現方法を工夫して表すことができる。

##### (2) 準備・資料

教師：視覚資料，アイデアスケッチ，工具（鉄工やすり，彫刻刀，万力，ハンドドリル，糸のこ），耐水ペーパー，研磨材，自習プリント

生徒：筆記用具，教科書，ファイル，石材（高麗石 3.5 cm×3.5 cm×8 cm）

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点 (◎評価)
<p>1 本時の学習内容を確認する。</p> <div data-bbox="204 309 708 472" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>自分を表す形 ～篆刻～ 持ち手編</p><ol style="list-style-type: none"><li>1 彫る・削る</li><li>2 磨く</li></ol></div> <ul style="list-style-type: none"><li>・板書と配布資料（既習内容）で手順を確認し、ファイルに本時の内容を書く。(前時)</li><li>・各自で工具を準備する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・本時の学習内容を伝え、見通しを持てるようにする。</li><li>・板書は平均的な進み具合であることを伝え、進度がそれぞれ違うので、各自の段階で丁寧に進めるように指導する。その際、前後の作業も併せて伝える。</li><li>・前時までのよい点や注意すべき点を伝え、簡単に工具の使い方や片付けを指示する。</li><li>・質問等が無ければ、手順や注意は省く。</li></ul>
<p>2 制作を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アイデアスケッチを確認し、デッサンを入れ直す。</li><li>・工具を使い制作する。</li><li>・耐水ペーパーと研磨材を使って印材を磨く。</li></ul> <p>(予想される反応)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大きく切り取りたい、穴を開けたい、丸くしたい、などの要望があるが適した工具が分からない。</li><li>・思い通りに形ができない。</li><li>・疲れた。飽きてしまった。</li><li>・アイデアが固まっていないため、迷いがある。</li><li>・研磨し終わってしまった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・机間指導で、それぞれの段階に合わせてアドバイスを する。</li></ul> <p>◎持ち手を彫刻するために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表そうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・磨いてつるつるの仕上げにするか、削ったままのざらざらした質感に仕上げるかなど、仕上がりで印象や伝わる感じが変わる事を伝え、最終的な表現のイメージが決められるよう手助けする。</li><li>・作り終わってしまった生徒には、もっとよくなるためにはどうするか考えるように促す。その点での確認や制作が終了した時には、振り返りファイルを記入するように伝える。さらに、自習プリント（作品の説明プリント）を書くように指示をして、生徒が作品と向き合う時間をつくるようにする。</li></ul>
<p>3 本時を振り返り、次時の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・片付けをする。</li><li>・振り返りファイルに、本時の学習の達成度や感想を書いて、活動を振り返る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・次の人が使う際に、気持ちよく使えるように考えながら片付けることを呼びかける。</li><li>・用具を生徒と共に片付けながら、机などを見て回り、破損や不備がないかチェックする。</li><li>・次時の予定を伝え、本時の学習したことや気付いた点を、これからの制作に生かしていくように呼びかける。</li></ul>